

津波防災国際ワークショップ in 神戸 2005

主催：独立行政法人港湾空港技術研究所

日時：2005 年 1 月 17 日（月）9:00～17:30（受付開始 8:30）

場所：神戸国際会議場 501 号室

（英一日の同時通訳あり）

日本では、近い将来発生する東海、東南海、南海地震などに伴う巨大津波による被害を軽減する対策が求められている。また、津波は、1960 年のチリ地震津波に代表されるように大洋を容易に伝わり沿岸の世界各国に被害を発生させる。津波防災や減災のためには、地域特性を考慮しながら、迅速かつ的確な避難を支援するためのソフト対策と構造物によって地域を守るハード対策とによる統合的な対策を構築する必要がある。統合的な対策の構築には、ハード対策の有効性の定量的な把握、津波被害の事前の推定、津波来襲に先立った情報伝達が大切である。

本ワークショップでは、津波やそれによる被害を推定するための数値計算や模型実験、統合的な防災・減災対策に関する世界の最新の研究が発表され、津波から人命及び財産の損失を軽減させるためのこれからの津波防災・減災技術を議論する。なお、本ワークショップの議論は、翌日 1 月 18 日の「これからの津波防災に関する国際シンポジウム」（本紙反対面参照）に引き継がれ、議論が深められる。

▼会議参加申し込み：会議参加は無料です。下記の連絡先へ 1 月 7 日（金）までにお申し込み下さい。

▼懇親会参加申し込み：会議後の「懇親会」に参加される方も 1 月 7 日（金）までにお申し込み下さい。なお、懇親会の参加費（6000 円を予定）は、当日、会場にてお支払いをお願いします。

基調講演：

高山知司博士（京都大学防災研究所教授）・・・“これからの津波防災技術（仮題）”

講演者と内容：

Michael Briggs 博士（米国陸軍技術開発研究センター海岸水理研究所）・・・“海岸水理研究所の津波研究”

藤間功司博士（防衛大学校教授）・・・“分散波理論の数値計算”

今村文彦博士（東北大学教授、大学院災害制御研究センター長）・・・“リアルタイム津波情報と被害評価”

Laura Kong 博士（国際津波情報センター長）・・・“太平洋におけるリスク軽減イニシアチブ”

越村俊一博士（人と防災未来センター専任研究員）・・・“水門・陸閘の閉鎖と津波被害抑止”

永井紀彦博士（港湾空港技術研究所海象情報研究室長）・・・“津波観測システム”

下迫健一郎氏（港湾空港技術研究所耐波研究室長）・・・“大規模模型実験水路による津波力実験”

富田孝史博士（港湾空港技術研究所高潮津波研究室長）・・・“3次元数値モデルの津波への適用”

Ahmet Yalciner 博士（トルコミドルイースト工科大学助教授）・・・“東地中海における津波とその防災”

Harry Yeh 博士（米国オレゴン州立大学教授）・・・“津波遡上域における最大流速と運動量流束”

Solomon Yim 博士（米国オレゴン州立大学教授）・・・“弾性体の津波挙動に関する数値モデル”

アルファベット順



ぜひご参加
下さい！

会場は、本紙反対面の地図をご覧ください。

また、神戸国際会議場ホームページは以下にあります。

<http://www.kcva.or.jp/kcc/icck/>

連絡先：独立行政法人 港湾空港技術研究所

高潮津波研究室 富田孝史

電話 046-844-5052

FAX 046-844-1274

Email. nagashima@pari.go.jp

